

# 検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2010年5月17日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No.115】

## 孀恋の別荘土地の購入・転売にも組織私物化の疑惑！

前号では福祉事業協会より振り込みのあったS元理事長の個人名義の口座から孀恋別荘の関係経費が支出された事実を紹介し、S氏・松崎氏と親族、福祉事業協会の私物化を疑わせる状況を検証した。この点について西岡研介著「マングローブ」を紹介する(p.301～)。

革マル派の隠し別荘を発見 軽井沢と並ぶ、関東屈指のリゾート、群馬県孀恋村。-(中略)-約42,000平方メートルの広大な敷地内に、点在する六つの建物。-(中略)-これらのログハウス、そしてこの広大な土地の所有者は全員、JR東日本の最大・主要労組「JR東労組」と、その上部団体「JR総連」の絶対権力者で、「革マル派最高幹部」の松崎明の関係者。-(中略)-この「JR革マル村」の土地・建物登記などをもとに作成したのが306ページのマップだ(注:マップは省略)。前述の六つの建物のうち、A(01年に新築)とC(92年に新築)のログハウスの所有者はK氏、D(93年に新築)の所有者はT夫妻になっている。そしてE(92年に新築)の所有者は、松崎の親戚夫妻だ。K氏は松崎の「腹心中の腹心」といわれる人物。JR東労組東京地本委員長などを歴任し、現在はJR総連顧問に就いている。また、JR総連関連の月刊誌「自然と人間」の発行元、「自然と人間社」の社長でもある。ちなみに自然と人間社は過去に、革マル派本体との関係も指摘された、JR総連の関連企業である。一方のT氏は現在、JR東労組研修長を務め、松崎と「松崎シンパ」のマスコミ関係者とのパイプ役を務めてきた人物だ。-(中略)-K氏所有のログハウスAが立つ土地の以前の所有者は「比嘉賢(仮名)」氏(注:「No.82」にある東労組書記)。-(中略)-同じくK氏が所有するログハウスC、未登記のB、前出のT氏が所有するD、そして松崎の親族が所有するEが立つ土地の以前の所有者は「Y」氏。Y氏はかつてJR総連の関連法人「鉄道ファミリー」の代表取締役を務めていたJR総連関係者だ。そしてこれらの北側に位置する、8000平方メートルにも及ぶ広大な山林の以前の所有者はTA氏。TA氏も前出の比嘉氏と同様、大学卒業後、旧動労に「就職」したプロパー書記だ。-(中略)-これらの土地はすべて、国鉄分割民営化直前の87年3月27日に、地元住民から一斉に購入されているのだ。地元不動産業者は「革マル村」の値段をこう分析する。「-(前略)-87年当時はバブル景気が始まったところで、-(中略)-土地だけでも約2億6000万円はしたでしょう」。前述の比嘉氏ら3人が、地元住民から購入した土地の登記簿を見ると、抵当権が設定されていない。つまり、彼らはキャッシュで購入した可能性が高いのだ。

転売の目的は「証拠隠滅」か 登記簿によると、三人が所有していた土地は95年3月15日、JR総連の関連法人「鉄道ファミリー」が購入。しかも「鉄道ファミリー」は、これらの土地を購入する際、鉄福から2億円もの融資を受けている。そして「鉄道ファミリー」は2000年8月10日、これらの土地を九つの土地に分筆。そのうち一つの土地(3150平方メートル)は「SD」、別の土地(3500平方メートル)は「M」、そして三つの土地(計4800平方メートル)は「MA」(夫婦名義)と3人の人物に売却されるのだ。SD氏は、前出の「松崎の金庫番」で、松崎の組合費横領疑惑のキーマンといわれるSの息子だ。一方、残りの二人は、ともに松崎の親族である。M氏は-(中略)-松崎の長女の娘婿で、JR東労組組合員。MAは、松崎明の長男だ。

### 松崎氏・S氏の息子らへ別荘土地を転売！資金の流れはどうか？

上記にある旧動労書記3人の名義の土地も、多額の現金で支払われたとすると、その出所も怪しいのではないかと。さらに95年に鉄道ファミリーが福祉事業協会から2億円の融資を受けて土地を購入したが、これも横領事件を彷彿とさせる売買だ。次にはS氏の息子、松崎氏の娘婿と息子A氏らに売却されたが、身内の売買において、本当に個人の資金で購入されたのかも疑われる。私物化の疑惑は深まるばかりだ。